卒業おめでとう！ 卒業生へ 贈る言葉

2年前、私は担任としてクラスの生徒と向き合う日々を過ごしていました。
やがて担任という立場を離れ、少し距離を置いて皆さんを見守る役割になりました。近くで支える日々も、遠くから見守る日々も、どちらも私にとってかけがえのない時間となりました。ここまでの日々を共にしてくれてありがとう。
この先、広い世界へ旅立つと追い風の日もあれば、向かい風の日もあります。風の向きは選べなくても、帆の張り方は選べます。自分の歩幅で確かな一歩を重ね、豊かな人生を築いていくことを願っています。

学年主任　荒川 諒太

Q.美味しいコーヒーの淹れ方は?
A.AIによる回答
①85～95℃で、蒸らしを30秒行う
②のの字を描くように数回に分けて注ぐ
③お湯がフィルターにかからないようにする
④粉全体が均一に湿るように注ぎ、Drippperを揺らす
⑤2分程度で抽出を終え、雑味のない味を引き出す
AIは、温度や時間、注ぎ方を丁寧に教えてくれます。とても正しい答えです。
けれど私は、4年ほど前から毎朝コーヒーを淹れているものの、温度も時間も気にしていません。前回は少し薄かったから豆を細かくしよう、今日は少し多めにしよう。そんなふうに考えるので、味は毎回違います。あの時偶然淹れられた最高に美味しい一杯を、もう一度同じように淹れることは難しい。それでも、試行錯誤を重ねるうちに「今日は美味しい」と思える日が増えてきました。
私はこの過程が好きです。正解に固執せず、寄り道を楽しむ。その先で、正解よりも自分らしい1杯に出会えるかもしれません。
また会いましょう。

301担任　落合 高基

皆さんはこれから、それぞれの進路で、それぞれの興味や好きを極めていくと思います。中には、まだやりたいことが決まっていない人もいれば、すでに夢や目標に向かい進み続けている人もいるでしょう。その中で、上手くいかないことや思い通りの結果が得られないこともあると思います。
それでも試行錯誤を繰り返し、「挑戦」し続けてください。行動した者にしか結果は訪れません。海外に行ってみたり、たくさん恋をしたり、たくさん友達とふざけあったり、たくさん挫折したり、その度に立ち直ってみせたり。多くの人と関わり、多くの『経験』をしてください。あなたの世界はあなたの『挑戦』で広げられます。そういった『挑戦』を経て得た『経験』は、決して無駄にはならないあなただけの『宝』や『武器』となります。完璧でなくていいです。失敗していいのです。素敵なものをたくさん得て、素敵な人間へと成長していってください。

302担任　湯浅 郁也

卒業おめでとう。
どんな形であれ、「これが幸せだ」と誇れるよう、歩んでください。
失敗しても、
出世しなくても、
夢を叶えられなくても、
一人ひとりが、自分の幸せの形を探し求めてほしい。
制限時間は、あなたのこれからの人生です。
皆さん、卒業おめでとうございます。

303担任　芳賀 健太郎

卒業おめでとう!
たくさんの感動的な成長の場にご一緒させていただきました。本当に素敵な時間をありがとう。
あなたが、あなたを認めてあげてください。少しでもよくなりたいと思ったこと、悪くなってしまわないように耐えたこと、自分をコントロールしたこと、他人と比較などせずにあなたを認めてあげられたら、誰かをを責めること、ひとを馬鹿にすること、ひとのせいにすること、わがままや不安はいなくなります。
どうせ、簡単にすててしまわないあなたは、必ずうまくいきます!
幸せな人生を!周囲に感謝を!
必ず顔をみせに来てください。

304担任　森岡 優介

『人生は選択の連続』
私たちの人生には数えきれないほどの分かれ道があります。これから先、思い悩み、考え、立ち止まることもあるでしょう。途中で投げ出したくなることや自分の弱さを認めることができず、周りのせいにしたくなることもあるかもしれませんが、どんなことも選択したのは自分自身です。
「何を思い描き、どのように行動していくのか」幾度となく積み重ねる選択と経験が、“今のあなた”“これからのあなた”をかたちつくっていきます。あなたの人生の主役はあなた。だからこそ、自分の気持ちに正直であってほしいと願っています。物事は捉え方次第で、良い方にも悪い方にも考えることができます。周りに流されず、自分の選択に自信と責任を持って歩み続けてください。皆さんと出会い、3年間を共に過ごせたこと、幸せに思います。卒業おめでとう。いつまでも応援しています。

305担任　滝本 汐里

3年生のみなさん、卒業おめでとうございます。
高校生活はどうでしたか。成長したと感じること、うまくいかなかったと感じること、さまざまな思いがあると思います。どんな経験にも意味があります。
同朋高校で得た経験を糧に、次のステージでも力を発揮してくださいね。
これからの活躍を心から応援しています。

306担任　磯村 美貴

卒業おめでとうございます。
今まで生きてきた18年間でどんな出会いと別れがありましたか?
これからの人生、いろいろな人との出会いと別れを繰り返していきます。それは決して悲しいことではありません。なぜなら「縁」がある人とは、一度別れたとしても、ふっとしたタイミングで再会したり、人につなげてもらったり、そこからさらに関係性が深まったりするからです。
もしかしたら今日出会った人が一生の親友になるかも。
もしかしたら今日出会った人が一生のパートナーになるかも。
もしかしたら今日出会った人が人生を変えるきっかけになるかも。
「縁」は自分から積極的に動くことで生み出すことができます。
一度しかない人生、「縁」を大切にして輝かしい未来を自らの手で切り開いてください。
みんなら大丈夫。

307担任　田中 琳奈

初めて出会った日の皆さんの姿を思い出し、あっという間に3年が過ぎたことに驚かされます。日々の学校生活や行事の中で、悩み、迷いながらも、クラスメイトや学年の仲間と支え合い、一歩ずつ前に進んできました。その積み重ねが、皆さんの成長につながっていると思います。
卒業は別れだけではなく、新しい出会いの始まりでもあります。これから先、それぞれが新しい場所へと歩み出します。不安や戸惑いに悩むこともあるでしょう。しかし、高校生活で身に付けた力や困難を乗り越えてきた経験は、必ず皆さんの力になります。多くの人と出会い、それぞれの場所で自分らしく新しい挑戦をしていってください。離れていても、皆さんを心から応援しています。

308担任　上田 真穂

卒業おめでとう。あっという間の3年間でしたね。この3年間は、みんなにとってどんな時間でしたか。先生方と、友達と、家族とさまざまな「イベント」を共にしてきたと思います。そして、これから先もみんなにはまだまだ多くの「イベント」が待ち構えています。そしてその一つひとつが影響し合って、最後みんなの今後の人生を決めていくことになります。時に、「この選択が正しいんだろうか」と悩むこともあるでしょう。そんな時は、この言葉を思い出してください。
"The only way to do great work is to love what you do. If you haven't found it yet, keep looking. Don't settle."
今後のみんなの人生が素敵なものになりますように!!

309担任　水野 孝

卒業おめでとうございます。
私にとって、3年間見続けてきた初めての卒業生です。柳川先生と共に、310も311も1つのクラスとして大切に見てきました。これまで厳しいこと、嫌なことをたくさん言ってきました。こういう性格なので、素直に褒めてあげられなかったことを申し訳なく思います。でも、これからは怒ってくれる人も少なくなってきますし、自分の想いも十分伝えてきたつもりです。だから胸を張ってあなた達を送り出せます。さあもう大人への準備は整っていますか。あなた達一人ひとりが選んだ道を「正解」にできるように行動してください。ここはみな同じスタートラインです。これからの行動の質でどれだけでも変わってきます。私はいつでもあなた達の選んだ道をここから応援しています。

310担任　丸山 栄治

これからそれぞれの人生を歩んでいくみんなに、ひとつの言葉を紹介したいと思います。
仏教の語に「自業自得」という言葉があります。悪い場面で使われることが多いですが、本来は良い意味も併せ持っています。「自業」とは、自分の行いのこと。「自得」とは、自分の運命のことを意味するそうです。善い行いをすれば、善い運命が待っています。悪い行いをすれば、悪い運命が待っています。では、善い行いとは何でしょうか?私は、人のため、世の中のために行動することが善い行いだと思います。困っている人がいれば手を差し伸べてあげること、家族や友人に挨拶をすること、ゴミが落ちていれば拾うこと、物を大切にすること…。意識すればできることがいくつかあると思います。
誰かのために行動できる人になってください。周りから愛される人になってください。自分自身も大切にしてください。幸せな人生を送ってください。
卒業おめでとうございます。

311担任　柳川 裕紀

25人に出会えたことで、私の今までの人生で選択してきた道が正解であったと答え合わせができました。
ひとつでも違う選択肢を選んでいたら25人に出会うことはなく、一緒に笑い、幸せな時間を一緒に刻むことはできませんでした。
これからたくさんの時間を過ごしていくと思いますが、時間は“人のために”“人を幸せにするために”使ってほしいです。
私と一緒に3年間過ごしてくれてありがとう。本当に本当に大好きだよ。

312担任　宇佐美 亜季

「僕らが手にしている富は見えないよ」
これは私がよく聴く曲の歌詞です。
「富」と聞くと、お金などの目に見えるものを思い浮かべる人が多いと思います。しかし、皆さんが高校生活で手にしたものは、「友情」や「思い出」ではないでしょうか?まさに、目に見えないものです。同朋高校で過ごした日々で得た「富」を、これからの人生でも大切にしてください。
また皆さんとどこかで逢える日を楽しみにしています。卒業おめでとう。

3年生副担任　佐藤 浩相

Schedule［行事予定］

2月	26日	木	音楽科･オーストリア修学旅行（～3月5日）
3月	2日	月	学年末考査（～3月6日）
	11日	水	1年生･家庭学習日、　2年生･自主活動日
	12日	木	1年生･自主活動日、　2年生･家庭学習日
	13日	金	進級判定発表、　健康診断
3月	19日	木	修了式
4月	6日	月	在校生登校日
	7日	火	入学式
	8日	水	始業式、　実力テスト

同朋高校公式 Webサイト▶

同朋高校公式 Instagram▶

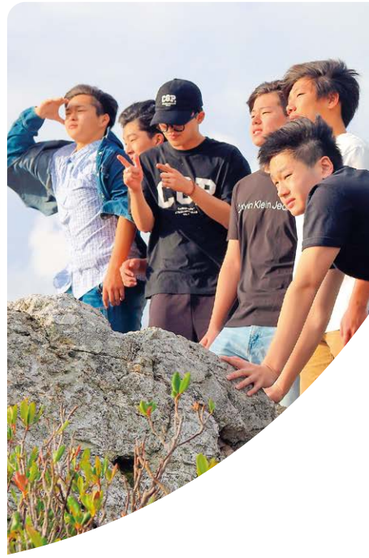
同朋和敬 2 学校通信
Doho High School Community Press
Vol.240 20 FEB 2026
同朋高等学校　学校通信編集委員会　平野・落合　名古屋市中村区稲葉地町7の1　TEL 052-411-1159

同朋和敬

Doho High School Community Press

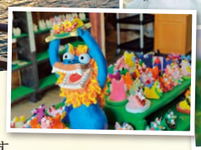
大切な仲間と高め合った秋

2
Vol.240
学校通信



今年度も2年生普通科・商業科が沖縄へ修学旅行に出かけました。「旅」は、遠くへ出かけることだけを指す言葉ではありません。未知のものに出会い、自分の考え方や見方が少し変わる。その過程こそが旅の本質です。行き先で見る景色、出会った文化やそこに流れる歴史、仲間とともに過ごした時間、すべてが心に深く残ります。
学校生活もまたひとつの旅です。友と語り合った日々、思い悩みながら乗り越えた経験、その一つひとつが今の自分を形作っています。進む道はそれぞれ異なりますが、学校で培った学びや人とのつながりは、必ず心の支えとなるでしょう。

同朋高等学校長　滝　敏行



修学旅行を振り返って

2年生普通科・商業科の生徒が3団に分かれて沖縄修学旅行へ行ってきました。2団は現地でインフルエンザ罹患者が多数確認され、保護者の皆様には大変ご心配とご迷惑をおかけしました。この場を借りてお礼を申し上げます。ご協力、ありがとうございました。

天気は団によって一部で降雨や強風がありましたが、おおむね良好で、時折夏のような暑さを感じる団もありました。日頃の学校生活を離れ、豊かな自然と文化を持つ沖縄でのさまざまな体験は、生徒にとって大変貴重なものになったに違いありません。

修学旅行を迎えるまでには、平和委員は各クラスの平和宣言文作成と平和祈念式典準備、学習委員はしおりの作成、演芸委員は最終日の演芸会の準備、そしてしおりの表紙などのデザインを学年から公募して掲載するなど、生徒と一緒に作り上げてきました。

初日は平和学習。前年度から大きく変えた点は、クラスごとの行動にしたことです。前年度までの形式では、クラスごとの行動が非常に少なかったため、修学旅行担当の丹羽先生と大野先生のこだわりでこの形式で実施いたしました。全クラス共通して「ひめゆりの塔」「平和祈念公園」「旧海軍司令部壕」を見学し、クラス単位で「山城本部壕」か「健児の塔」のいずれかのガマ（避難壕）に入壕しました。ひめゆりの塔や旧海軍司令部壕は規模が小さいため、またガマも1クラス入るのが精いっぱいな規模なのでクラスで時間差行動としました。1つひとつの戦跡や資料館の滞在時間が40～50分程度であったため、慌ただしい行程となったことが課題として残りましたが、真剣なまなざしで説明を聞いたり証言文を読んだりする姿は、私たちの想像以上のものであり、何か少しでも平和について考えることができたのではないかと感じております。

2日目の自然体験はシュノーケルやカヤック、ドルフィンガイドツアーなどそれぞれのコースで楽しむ生徒の姿を見ることができました。自然体験後は美ら海水族館に集合し、巨大な水槽を悠々と泳ぐジンベエザメや美しい熱帯魚などを見学して楽しみました。

そして2日目夕方に伊江島に渡っての民泊。3日目昼過ぎまで島の子となり、島内観光や琉装体験、ビーチ散策などをして楽しんだようです。離村式では楽しそうに写真を撮る反面、涙で別れを惜しむ生徒も複数見られ、フェリーに乗ってからも大きな声で叫んだり手を振ったりしている姿を見て、私たち教員も寂しい気持ちになったほどでした。

最終日は「むら咲きむら」へ行き、コースごとにちんすこう作りやシーサー作りなどを行い、沖縄の文化に触れました。そして最終行程の国際通り散策。お土産の入った大きな袋を抱えて那覇空港へ集合する姿は、修学旅行を本当に楽しんできた証だと感じました。ある生徒は「ほとんど家族とか友人に配るお土産です」という言葉を口にしていました。それだけ自分が楽しかった思い出をお裾分けしたかったのだなと、聞いていて本当に嬉しくなりました。

子どもたちは沖縄のことを学び、沖縄の自然と文化に触れ、そして友人・クラス・民家さんとの絆を深めることのできた4日間となりました。修学旅行を実施するにあたり、多くの方のご協力のおかげで心に残る修学旅行を実施することができました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

2年生学年主任　内田 義博

修学旅行行程

1日目　中部国際空港 ― 那覇空港 ― 平和学習（沖縄戦遺跡巡りとして、平和祈念公園・ひめゆりの塔・旧海軍司令部壕・ガマ（避難壕）） ― ホテル

2日目　ホテル ― 自然体験学習（バナナボート・シュノーケリング・カヤックなど） ― 美ら海水族館 ― 本部港 ― 伊江港 ― 民泊

3日目　民泊 ― 伊江島内研修（各民泊先による体験学習） ― 伊江港 ― 本部港 ― ホテル

4日目　ホテル ― むら咲むら・沖縄文化体験学習 ― 牧志公園 ― 国際通り散策 ― 那覇空港 ― 中部国際空港

1団（1組・2組・3組・9組）12月10日（水）～12月13日（土）　2団（4組・7組・10組・11組）12月11日（木）～12月14日（日）　3団（5組・6組・8組）12月12日（金）～12月15日（月）

人から人へ

201 成田 心彩（名古屋市立高杉中学校出身）

修学旅行に行って、私は2つのことについて学びました。

1つ目は、初めて会った人でも優しく、おもてなしをしてもらうと、涙が出るくらい離れるのが寂しくなるということです。私は、知らない人の家に行くのが嫌で、民泊から早く帰りたいと思っていました。しかし初めておばあとおじいに会った時、笑顔で目をしっかり見て挨拶をしてくれて、心温かく迎えてくれました。私たちが行った日はお孫さんの誕生日だったそうで、アイスを振る舞っていただき、一緒に誕生日を祝わせてもらいました。お孫さんは嫌な顔せず、笑顔で話をしてくれました。

ほかにも、おばあが近くで採れた野菜を使った料理や、サーターアンダギーなど沖縄のおいしいご飯をたくさん出してくれて、おじいは育てたサトウキビを食べさせてくれました。その時に、みんながあまり食べられなくても「いいよ、無理しないで」と言ってくれました。さらに可愛いビーズのアクセサリーを作らせてくれて「ほかの子にあげる分も作っていいよ」と、たくさん作らせてくれました。

伊江島では、タッチューに登らせてくれて、その後、近くのお土産屋さんでは長めに買い物をする時間をくれ、ブランコのある綺麗な海や、海がハートの形に見える洞窟にも連れて行ってくれ、たくさん遊ばせてくれ、急かさずに待っていてくれました。これらの思い出から、1日という短い期間で、たくさんの優しさに触れることができました。

2つ目は、沖縄の人はとても温かいということです。私は2日目の自然体験で護岸釣りをしました。餌のエビをなかなか上手につけることができず、助けを求めたところ、笑顔で付け方を教えてくれて、餌が落ちない方法も教えてくれました。まったく釣れなくても、たくさん声をかけて励ましてくれました。

その日のお昼にはタコライスを食べました。辛めの味付けで友達には少し合わず「ご飯とチーズだけおかわりしたいです」という少し変わった注文をしましたが、快く応じてくださり、友達はとても嬉しそうにしていました。そして、どこのお土産屋さんのスタッフさんもたくさん声をかけてくれて、おまけもたくさん入れてくれたり、私が買い物中に独り言を言ったら、それにも反応してくれたりと、程よい距離で買い物の手伝いをしてくれました。4日目では、自分たちでご飯を食べに行かなければならなかった時、お会計でどうやって払いたいか聞いてくれて「1人ずつお会計できるよ」と言ってくれたので、最後まで楽しくご飯の時間が過ごせました。

このことから、人に優しくすることは、自分も相手も心が温かくなり、記憶に残り続けるのだと思いました。この経験を活かして、私はどんな人にでも優しくしたい。そして、もらった優しさをほかの誰かにも分けることができる人になりたいと思いました。

第二のおじい、おばあ

205 早川 ひなの（大治町立大治中学校出身）

人生で最後の修学旅行はとてもいい思い出になりました。

私たちは3団で、1団2団の人達から話をたくさん聞いていて、とても楽しみな半分、とても不安でした。民泊はそれぞれのおじい・おばあの家に泊まるのでいつもと違う環境でお泊まりすることはとても緊張しました。でもおじい・おばあは私たちをとても優しく迎え入れてくれてすぐに緊張が解けました。おばあが作るご飯はとても美味しくて愛知県に帰ってきた今でも食べたくなる味でした。私たちに気軽に話しかけてくれて本当の祖母のように接してくれて、とても嬉しかったです。ご飯を作っているときにおじいとおばあに話しかけてお互いの好きなところは何ですか?と聞いたら、おばあは恥ずかしがってそんなのないよと言っていましたが、おじいはおばあの全部が好きと答えていてとても素敵な夫婦だなと思いました。自分がおばあちゃんになっても、このような夫婦になりたいと思いました。夜ご飯を食べた後は、おじいと一緒にトランプで遊びました。おじいはやらないかなと思っていたらノリノリで一緒に遊んでくれてとても可愛かったです。

次の日はおじいが伊江島のいろいろなところに連れて行ってくれて、伊江島の自然や戦争の跡を学ぶことができました。時間が無くて私たちがずっと行きたがっていた海には行けないと言われていたけれど、おじいが時間を作ってくれて「5分だけならいいよ」と言って連れて行ってくれました。私達のためにおじいが頑張ってくれてとても嬉しかったです。どこの場所に行っても、おじいが私達のカメラマンをしてくれて頑張ってくれてとても可愛いかったです。

もう帰らないといけなくなったとき、最後の最後まで思い出を作ってくれようとして最後にみんなでサーターアンダギーを作りました。揚げたてを初めて食べて、おいしくて、感動しました。島から出る時、おじい・おばあと離れるのが悲しくて、みんなで泣きました。おじい・おばあは私にとって第2のおじいちゃんおばあちゃんです。また伊江島に行っておじい・おばあに会いたいと思いました。一生忘れられない素敵な思い出になりました。

未来の平和のために

211 大石 ルリカ（名古屋市立伊勢山中学校出身）

私はこの修学旅行で、平和とは何なのか、日常に隠れている密かな幸せを知ることができました。

修学旅行1日目の平和学習では、これまで学校で学習してきた沖縄戦のことをより深く学ぶことができました。

旧海軍司令部壕は、戦時中実際に使用されていた地下壕で、当時の戦場の悲惨さを物語っていました。大人数で休息をとるにはあまりにも狭すぎる下士官室、心なしか重い空気が流れる医療室、人々が自決をした跡の残る幕僚室。とくに幕僚室が印象的で、当時ここで人が自決していたのだと思うと、心が痛くなりました。

次にひめゆりの塔と資料館を訪れ、私は言葉が出なくなりました。これまで学んできたことからでは感じることのできない、彼女たち一人ひとりの命や思いが強く伝わってきたからです。資料館に入りまず目に飛び込んできたのは私たちと同じ年代の少女たちの写真でした。生き残った、生き残ってしまった彼女たちが大人になり、戦時中のことを語る証言映像を見て、私はしばらく黙り込んでしまいました。彼女たちの過去が「辛い」の一言では言い表せないほど悲惨で、胸が締め付けられるほど重く、簡単に受け止められるものではなかったのです。自分が戦争を生き延びたことに対して、申し訳ないと罪悪感を抱いている方が多く、心が張り裂けそうになりました。生きていてよかったではなく、彼女たちは生きていることに恥を覚えていたのです。したくもない戦争に参加させられ、無意味に周りの人間たちを殺されて、戦争にあまりにも多くのものを奪われた当時の彼女たちの気持ちを思うと息がつまりそうになりました。

平和祈念公園・健児の塔では戦争で亡くなられた方々に手を合わせ、これからの平和を祈りました。

今回「平和のこと」を私たちに伝えてくれた方のように、これからは私たちが次の世代に語り継いでいかなければなりません。日々の生活に隠れているちょっとした幸せに感謝をし、毎日を大切に過ごしていきたいです。

1年生　自主活動日「合唱コンクール」

私のクラスが、合唱の練習を始めた頃、なんとなく合唱コンクールがあるといった、実感が湧かない空気が教室全体にあったと思います。本当にやっていけるかと不安にも襲われました。けれど、練習を重ねるうちに、「もっと大きな声で歌おう」「優勝できるように練習に一生懸命に取り組もう」など、練習に前向きに取り組めるような言葉をかけてくれる人達がいました。その言葉のおかげで、不安な気持ちは消え去り、クラスが段々とひとつになっていくのを感じました。また、私達のクラスは、文化祭で賞が取れなくて、悔しい思いをした経験があります。そういった悔しい経験も、合唱コンクールのやる気につながったのかと思います。

たくさん練習を重ね、合唱コンクール本番。絶対に優勝したいといった思いを胸に、最後の最後まで、練習をしました。練習した分だけの緊張を胸に、舞台に登りました。そんな中歌った「コスモス」。それは、今までで一番素晴らしい合唱だったと胸を張って、言い切ることができます。今まで練習で意識してきた、強弱の付け方が歌ってる私たちでもわかるくらい、とても上手にできていたと思います。歌い切った後、もしかしたら、本当に優勝できるかもしれないと期待で胸が弾みました。

そんな思いを抱えた中、私達のクラスが優勝だとわかった時は、とても嬉しかったです。けれど、それと同時にあと何回このクラスで、ひとつになって一生懸命頑張れるのだろうと考えると、寂しい気持ちになりました。体育祭、文化祭と今回の合唱コンクール、一筋縄ではいかないことばかりだったけど、どれもいい思い出で、とても楽しかったです。残りこのクラスで過ごせる短い時間、何か行事がなかったとしても、よりクラスがひとつになるといいなと心から思います。

108 山﨑 詩恩（清須市立春日中学校出身）

1年生　いのち・人権講演

1年生は同朋大学・成徳館を会場に、「いのち・人権講演」を受講しました。今回は、本校2年生の保護者であり、また卒業生の保護者でもある助産師の日比野由美さんと夫の武彦さんを講師としてお招きし、命の尊さや人権について学ぶ貴重な機会としました。

講演のはじめに、助産師としての現場での経験をもとに、妊娠から分娩に至るまでの流れについて、丁寧にわかりやすく説明していただきました。助産師の仕事がどのような役割を担っているのか、命を預かる責任の重さや大変さ、そしてその中にあるやりがいや喜びについて、実体験を交えて語ってくださいました。

続いて、妊娠・分娩の流れを、教員2名によるロールプレイを交えながら、分かりやすく説明いただきました。生徒たちにとってはまだ実感が湧きにくい内容でありながらも、集中して真剣に話を聞く姿が印象的でした。

その後、胎児の成長や分娩に必要な3つの要素について学び、赤ちゃんが自ら生まれ出る力を持っていることを知ることができました。命が誕生することの奇跡に触れたことで、親になるとはどういうことかを考える時間ができたと思います。

最後に、人と支え合うこと、人とつながって生きる大切さを伝えていただき、今まで以上に親や友人への感謝が芽生えたと感じます。

講演の途中に設けられたブレイクタイムでは、ペアでの励まし合いをしたり、実寸大の胎児の人形の展示を通して、命の成長過程を実際に目で見て感じたりするなど、生徒一人ひとりが終始集中して講演を聞き、さまざまな気付きを得ている様子でした。

今回の講演会を通して、生徒たちは自分自身が生まれてきたことは決して当たり前のことではなく、多くの人の関わりや奇跡の連続の中で今の自分が存在していることを学びました。命が誕生するまでの過程や支え合いの大切さを知ることで、「いのちの尊さ」を学ぶ貴重な機会となりました。また、家族や友人、周囲の人々とのつながりや、日々支えてくれる存在への感謝の気持ちについても改めて考えることができました。今回の講演で得た学びや気付きを、今後の学校生活や日常生活の中で活かし、自分自身も他者も大切にしながら行動していってほしいと思います。

担当教員　吉川 颯斗

3年生　自主活動日

同朋生として最後の自主活動日を実施しました。今回の自主活動日は、卒業式実行委員会に所属している生徒が中心となって企画・運営をし、「リベンジ企画」と「運動会」の2本立てとなりました。初めて自主活動日の企画・運営に携わる生徒がほとんどでしたが、さまざまなアイデアを出し合い、時に衝突もしながら、素晴らしいものに仕上げられたと思います。

私自身、この自主活動日にかかわるのは初めての経験です。準備から当日の運営まで、3年生の生徒や学年の先生方に助けられることが何度もありました。そして、生徒たちが同朋高校で過ごした3年間で身に付けた協調性や発想力に触れることができ、改めて同朋生の底力を実感しました。

「自主活動」は、生徒主導で行う活動であり、教員はなるべく口を出さず、生徒の自主性を促すことが重要となるイメージでした。しかし、今回の自主活動日を通して、「自主活動」とは、生徒とともに教員も成長できる行事だと感じました。生徒たちとともに行事の成功に向けてコミュニケーションをとる中で、生徒のよいところを新たに発見したことや、私自身が生徒から学んだことも多くありました。

自主活動日の最中の生徒たちの楽しそうな表情や、終了した時の晴れやかな顔が見られて本当によかったです。3年生の皆さん、本当にお疲れさまでした!

3年生自主活動日担当教員　佐藤 浩相

私は今回、自主活動日の企画運営に携わりました。

企画を考える段階では、どうすれば多くの人が楽しめるかを意識しながら話し合いを重ねました。実際に準備を進める中で、想像以上に多くの課題があり、準備の大変さを実感しました。特に大変だったのは、時間配分の調整です。参加者を指定の場所に移動させる時間、並ばせる時間、リベンジ企画と競技の時間など、細かい部分まで時間を予測しながら4時限の終了時刻までに収めなければなりません。そのうえ、どうすれば全体がスムーズに進むかということも意識しながら話し合いを行いました。その結果、当日は大きな遅れもなく、計画通りに進行させることができました。企画運営に携わった一人として、準備の大変さを乗り越えたからこそ得られた大きな達成感を感じました。

ここからは、自主活動日の企画のひとつであるリベンジ企画について振り返ります。私はこの企画で、ラップバトルに挑戦しました。挑戦した理由は2つあります。1つは、9月26日の文化祭の野外ステージで私は初めてラップバトルに挑戦しましたが負けてしまい、どうしてもリベンジしたいという思いがあったからです。もう1つは、昔から大勢の前でステージに立ち、パフォーマンスをしたいという夢があったからです。もともと私は、人前に出るようなタイプではありませんでした。人前に出ても、手や声が震えていました。そんな私にとって、この挑戦は簡単なものではありませんでした。正直、「笑われるかもしれない」という不安もありましたが、それでも夢を叶えたい!リベンジしたい!という思いがあり、挑戦することを決めました。当日は強い緊張の中でラップをしました。結果は負けてしまいましたが、それでも大勢の前でステージに立ち、パフォーマンスをするという夢を叶えることができ、とても嬉しかったです。また、挑戦できたこと自体が、自分にとって大きな経験になりました。さらに、この挑戦を通じて成長した点もありました。それは、人前に立つことに対する恐怖心を克服できたことです。

自主活動日全体を通して、何事にも挑戦することの大切さを学びました。経験は自分を成長させることにつながると感じました。これからもこれらの経験を活かし、さまざまなことに挑戦していきたいです。在校生の皆さんも、何か挑戦したいことがあれば積極的に取り組んでほしいです。

311 野々原 健太（春日井市立東部中学校出身）

報恩講

11月28日は、真宗（浄土真宗）をひらかれた親鸞聖人の御祥月命日であり、「報恩講」という法要が行われます。「報恩講」とは、親鸞聖人や皆さんの周りにいる仲間との出会いに感謝（報恩）し、皆で集まる（講）という意味で、真宗の行事の中で最も大切で大規模な法要です。

今年度は真宗大谷派学校連合会が60周年を迎え、その記念事業として「合同報恩講」が行われることになりました。YouTube配信を通して、本校1年生生徒が全国の仲間と法要に参加しました。ご挨拶にも、親鸞聖人の教えを基盤に据えて「何が大事か」「自分の人生をどう生きていくか」を考える学校が全国に30ほどあり、今日はその25,000人が集っているとありました。

合同報恩講の中で、系列校卒業生の活躍が紹介されました。本校からは二村航平先生が取り上げられました。卒業生の二村先生は、同朋での学校生活で仲間と共生することの尊さを学ばれました。皆さんの中にも文化祭や体育大会、卒業式などの行事を通して、いいものを作るために他者と協力したり、ぶつかったり、補い合ったりしながら、仲間や自分のよいところに気付いた人は多いのではないでしょうか。そして、それらを「見真の日」の感話や「報恩講」を通して改めてじっくり見つめ直す機会が本校にはあります。「何が大事か」「どう生きるか」を考え続けてください。

宗教主任　久保田 彩

同朋セミナー　小林さやかさん講演「才能を引き出す、親子の関わり」

同朋セミナーは、本校の課外セミナーのひとつで、教職員に限らずさまざまな方を講師に招いて行う講座です。「秋の味覚バッタを食べよう」「お寺でタンゴ」など過去にも魅力的な企画が多数実施されています。

今回は、書籍・映画化もされた「ビリギャル」ご本人である、小林さやかさんにお越しいただき「才能を引き出す、親子の関わり」というタイトルで講演をいただきました。

認知科学や心理学の知見から、人が成長するうえで何が必要かについて解像度高く言語化された講演会であるとともに、時々垣間見えるギャル語の絶妙なバランスが素晴らしく、面白さの中にもためになる、聞きごたえのある講演会となりました。ご参加いただいた保護者の方々からも次々に質問が上がる、大変学び豊かな時間とすることができました。

なお、今回の講演は、小林さん自身が現役高校生の「ビリギャル」だった頃の恩師、坪田信貴氏が塾長を務める坪田塾様の全面後援により実現しました。坪田塾様には、今年度登録制自習室の在り方についても継続的にアドバイスをいただいています。今後も、子ども達を中心に、学びの場を豊かに面白くしていけるよう尽力していきたいと思います。

Club&Award News

生徒の活躍（2025年9月1日～12月31日）

■柔道部

令和7年度愛知県私学祭体育大会柔道競技
女子の部　個人　**優　勝**　204 中谷 優心
　　準優勝　207 沖本 芽依
　　第3位　208 山田 七夢
女子の部　団体　**第1位**
男子の部　団体　**第3位**

第48回尾張・名古屋・知多新人柔道体重別選手権大会
女子78kg超級　**優　勝**　204 中谷 優心
女子63kg級　**優　勝**　207 沖本 芽依
女子52kg級　**第3位**　208 山田 七夢

令和7年度愛知県高等学校新人体育大会 柔道競技 名南支部予選会
女子団体　**優　勝**
男子団体　**第4位**

■陸上競技部

令和7年度愛知県高等学校新人陸上競技大会名南支部予選会
男子円盤投げ（1.750kg）　**第5位**　211 瀬古 基稀
女子棒高跳　**第4位**　101 砂川 怜音

令和7年度愛知県高等学校新人体育大会陸上競技
男子円盤投げ（1.750kg）　**第6位**　211 瀬古 基稀

第53回名古屋地区陸上競技選手権大会
男子ハンマー投げ（7.260kg）　**第3位**　301 辻 真拓

■サッカー部

令和7年度愛知県高等学校新人体育大会サッカー競技 名南支部予選会
Cブロック優勝

■男子バスケットボール部

2025 AONAMI CUPバスケットボール競技
第3位

■女子バスケットボール部

第78回全国高等学校バスケットボール選手権大会
U18 ALL AICHI CHAMPIONSHIP 2025 愛知県大会
二次トーナメント　**ベスト16**

ABA U18バスケットボールリーグ 2025-26シーズン
県2部リーグ昇格へ

■女子蹴球部

第34回全日本高等学校女子サッカー選手権大会愛知県大会
第3位

■女子テニス部

令和7年度名古屋南地区高等学校テニス選手権大会
女子の部・シングルス　**第5位**　208 稲富 莉子

■バドミントン部

令和7年度第28回刈谷オープンバドミントン大会
女子3部
優　勝　305 柴田 依蕗・他校生
準優勝　205 水野 薫子・103 瀧 美沙緒

令和7年度愛知県高等学校新人体育大会バドミントン競技名南・知多支部予選会
女子ダブルス　**ベスト8**　205 水野 薫子・103 瀧 美沙緒
女子シングルス　**ベスト16**　205 水野 薫子

■ラグビー部

第105回全国高等学校ラグビーフットボール大会 愛知県大会（第1地区）
第3位

令和7年度愛知県高等学校新人体育大会ラグビーフットボール競技
名南知多支部予選会
優勝

■商業科

国家資格 ITパスポート試験 合格
310 小林 央・310 田中 椛月・311 中村 真之介

令和7年度税を考える高校生の作文
名古屋中村税務署長賞　211 足立 美奈

第16回トンボ1129（いいふく）デザインコンクール
制服デザイン部門　**入選**　111 山田 瑚々南

■音楽科

第49回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール
フルート部門　**第5位**　212 二宮 佑斗

第35回日本クラシック音楽コンクール
フルート部門　**本選合格**　212 二宮 佑斗

■国語科

第36回伊藤園お～いお茶新俳句大賞
佳作　203 江田 日咲・211 佐藤 美月

商業科

本校商業科は、社会で活躍されている方から「働く」大切さを学ぶ機会を大切にしております。2学期は3種の企画を用意し、自分らしさを大切にしながら働くとは何か、社会で活躍するとは何かを考えてもらいました。　商業科主任　彦田 大介

ライフプランニング学習会(商業科3年生)

生命保険会社の方にご来校いただき、人生設計を一緒に考えました。生命保険会社の方が顧客の人生設計を立てる際に使用するアプリをお借りし、まずは設定された所得内で、父・母と2人の子どもの4人世帯を想定し、車や住宅の購入、旅行など、夢満載の人生設計を立てました。当然のことながら、家計収支は大赤字。ムダを省いた人生設計を立てれば、そのようなことにはなりませんが、それでは楽しくない。そこで、夢の人生設計を精査し、実現させたいこと、改善したいこと、妥協できることを挙げていくと、どのグループも所得の範囲内でもかなりの夢を実現できることに気付きました。我慢するのではなく、精査しながら計画を立てる必要性を学びました。

色を通して自分らしさを発見するパーソナルカラー講座(商業科3年生)

その人に合う色として「イエローベース」や「ブルーベース」という言葉があります。さらに細分化し、春・夏・秋・冬の4つの季節で表現することもできます。これまでのパーソナルカラー講座で、3年生の生徒たちは自分を表現する季節まで学びましたので、今回は季節に応じたアイテムの選択に取り組みました。自分を表現できる色を知っていることで、自信を持って服装を選択することができます。今回はパーソナルカラー診断士の方にご用意いただいたアイテムを装着し、全員が集まると、それぞれの良いところがよりアピールできたからか、全員が堂々とした笑顔で集まることができました。色の合わせ方を知り、プライベートで遊ぶときはもちろんですが、仕事をはじめお客様と接遇する際に、自分を適切に表現できるといいですね。

税理士事務所訪問(商業科希望生徒)

名古屋駅の近くに構える税理士事務所を訪問しました。まずは会議室で税理士事務所採用担当者から、どのような人間が採用されやすいのかなど、採用に関する話をいただきました。続いて職員の方にご協力いただき、給与明細の見方や所得税について学び、オリジナルゲームを活用しながら資金の移動について学びました。場所をオフィスに移し、真剣な表情で各種計算書類と向き合い、頻繁に相談を交わしながら業務されている様子を見学しました。

音楽科

洗足学園音楽大学によるミュージカル・ワークショップを実施

10月21日、本校音楽科からも多くの生徒が進学先に選ぶ「洗足学園音楽大学」の出張授業があり、ミュージカルコース18名と声楽コース11名の計29名の生徒がミュージカルのワークショップを受講しました。

洗足学園音大の教授たちによる指導のもと、その場で作品を仕上げていく様子は、生徒たちにとって刺激的な学びの時間となりました。

またこの出張授業では、洗足学園音大に進学した本校卒業生を毎年同行させ、授業の参加はもちろん、最後に演奏を聴かせてくれることがもう一つの目玉となっています。今回も昨年度の卒業生が帯同して、いわゆる里帰り演奏を披露してくれました。成長した姿を目の当たりにし、教員としても感無量でした。

音楽科主任　鏑木 勇樹

PTAだより

同明高等学校保護者と教職員の会(通称：PTA)は、すべての保護者と教職員が会員です。

今年度の同朋オープン・フォーラムを振り返って

今年度の同朋オープン・フォーラムが、12月6日(土)に、生徒・保護者・教員・市民の四者の参加で開催されました。今年度のテーマは「三者(四者)でつくる同朋(なかま)のミライ」でしたが、開かれた3つの分科会では、それぞれに「ミライ」が見つけられたようです。また、6月・7月に行なわれた「地域懇談会」に対する、学校としての回答も発表され、保護者・教員間の応答性のあるフォーラムとなりました。

「自治・自律」をテーマとした第1分科会では、全校生徒を対象としたアンケートの結果データに基づいた『理想の同朋生』について、グループ活動・発表・交流が行われました。生徒・保護者・教員・市民で付箋を貼りながら「なりたい自分」を見つめました。

「18歳成人」となった社会で、後期中等教育期間中にどのように「自立」を促し、育むかを考える第2分科会。「幼少期からの継続的な金融教育」を家庭で実践されている久野さん親子の話を基に、グループ交流も盛り上がりました。

第3分科会は「進路」を見つける「これが私の進む道」がテーマでした。卒業生・保護者・教員がそれぞれの人生のターニングポイントを語り、グループで交流する形式で会が進みました。明るい雰囲気の分科会をつくり出すためのすてきな飾り付けもありました。

同朋高校は、学校と家庭が生徒を中心において、市民性を持った子どもを育てていく学校です。今年度のオープン・フォーラムは、その形の顕現であったと言えます。今後もさまざまな場で保護者や生徒と意見交流をしながら、地域に根ざした教育を目指していきます。次年度もさまざまな場への参加、交流をよろしくお願いいたします。

同朋オープン・フォーラム担当教員　寺町 健

寄せられた感想文の一部

【全体会】

・自分が生徒だった頃、こんな活動をしているとは思っていなかった。考えてくれる大人がたくさんいることは、生徒にとって喜ばしいことだと思います。　(卒業生)

・「正解のない答え」を求めていく態度につながる「全体会」であったと思います。　(教員)

【第1分科会】

・先生や保護者だけでなく、卒業生などさまざまな立場から意見が出て、普段の生活では考えないことが考えられてよかったです。　(1年生生徒)

・生徒や教員の視点から「理想の同朋生」についてさまざまな意見を交流し、考えを深められたのでよかった。　(市民)

【第2分科会】

・とても興味のある内容で、学びになりました。参考にさせてもらいます。ステキなお話をありがとうございました。グループ交流会も楽しかったです。　(2年生保護者)

・小さいころから、お金をどう使っていくのかを学ぶことで、大きな金額を渡された時に一つひとつを考え、先を見通す力をつけることができると思った。また学校で学ばないことだからこそ大切だと思った。　(3年生生徒)

【第3分科会】

・いろいろな目線で考えたり、思いが知れて貴重な時間でした。家に帰ったら子どもと共有したいです。　(3年生保護者)

・話し合いを通して、「どんな人になりたいのか、どんな人間性を育みたいのか、対価とは」について改めて考えることができるよいきっかけとなった。　(2年生生徒)

PTA合同補導を実施

「PTA合同補導」とは、PTA生活指導委員会が学校の生活指導部の先生と一緒に繁華街を巡回し、その後に生徒の情報を交換する行事です。今年度は2学期中間考査最終日に名古屋駅周辺で実施し、今回はPTA会長も参加されました。

子どもたちの健全な育成を念頭に置き、これまでは下校後の子どもたちに声をかけながら、速やかな帰宅を促す取り組みだったそうです。しかし最近は、ゲームセンターなどの娯楽施設などに立ち寄る生徒の姿は少なくなり、カラオケ店や飲食店へすぐに入店してしまうようです。そこで、巡回後の情報交換会では、「街頭補導」の名称を、趣旨に合ったものに変更していく必要性が挙がりました。実施後の先生方による生活指導部会でも、「巡回では学年を越えて通学を取り巻く環境を共有し、巡回後は学年ごとに生徒についての情報交換として、保護者と教員の親交を深める」と目的や留意点を確認しました。

来年度以降、この企画の名称の検討も含めて実施される見込みです。今後とも子どもたちの健全な育成に、ご家庭からの協力をよろしくお願いします。　PTA生活指導委員会

令和7年度「愛知県私立学校経常費補助金」について

保護者の皆様には、平素より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、ありがとうございます。また「地域別県民文化大祭典～オータムフェスティバル」では式典への参加、運営協力券の普及など、私学助成金拡充運動にご尽力をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

令和7年度の同朋高等学校への愛知県私立学校経常費補助金の交付額が右記のように決定いたしました。皆様のご協力により、補助額が引き上げられております。今後も教育条件の一層の充実と財政の安定化に向けて、引き続き努めて参る所存です。今後ともご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。　同朋高校助成金推進協議会

一般補助	特別補助	合計	生徒数	一人当たりの補助金
494,850千円	33,992千円	528,842千円	1,312人(2025年5月1日現在)	403,081円

今年度もPTA(保護者と教職員の会)の諸活動にご協力いただき、ありがとうございました。
また、常任委員を務めていただいた保護者の方、お忙しいなか、各種活動にご参加いただき、ありがとうございました。
来年度以降も、本校のPTA活動に対し、ご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。　PTA庶務担当教員一同